

業務委託一括発注にむけて（案）

業務委託一括発注の最大の目的は維持管理経費削減及び適正な施設数ですが、現在まで各所管課において細部まで仕様書の見直しを行い、委託料削減を行った背景もあり、仮に業務委託一括発注契約を実施することとなった場合でも、金額面でのスケールメリットが見込めない可能性があります。

しかし、現在の財政状況では更なる経常経費削減に努めなければなりません。そこで、アクションプラン対象施設の施設維持管理経費について現状と分析を行いました。

1. 現状

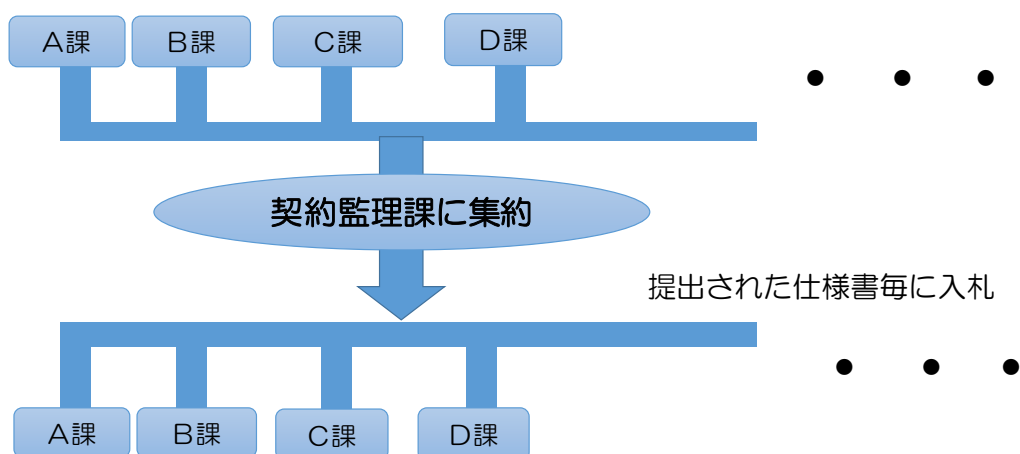
項目	除草・剪定	空調	消防設備保守	清掃
施設数	118施設（6部13課）	52施設（6部14課）	118施設（7部15課）	66施設（7部15課）
総額	22,813,897円	35,768,563円	18,429,452円	89,805,263円
平均コスト/㎡	74円	253円	52円	954円
最大コスト/㎡	3,142円	1,545円	1,360円	3,358円
最小コスト/㎡	16円	25円	5円	94円
契約期間	単年&時給	単年&長期継続	単年&長期継続	単年&長期継続

※コストに差額が生じる要因として、仕様書内容や施設状況などが異なることが考えられる。

例) 機器点検箇所が高所にあり、点検には足場が必要となりコストがかかる。

・入札及び契約方法

各施設の清掃・警備・浄化槽・自動車リース業務委託契約については、各課から契約監理課へ仕様書を提出し仕様書毎に入札し契約。その他の除草・空調・消防設備業務委託契約については各所管課が入札し契約。



清掃、警備、浄化槽、自動車リース業務委託契約 スキーム図

2. 問題

施設ごとに仕様書
が異なる

単年と長期継続契約の存在

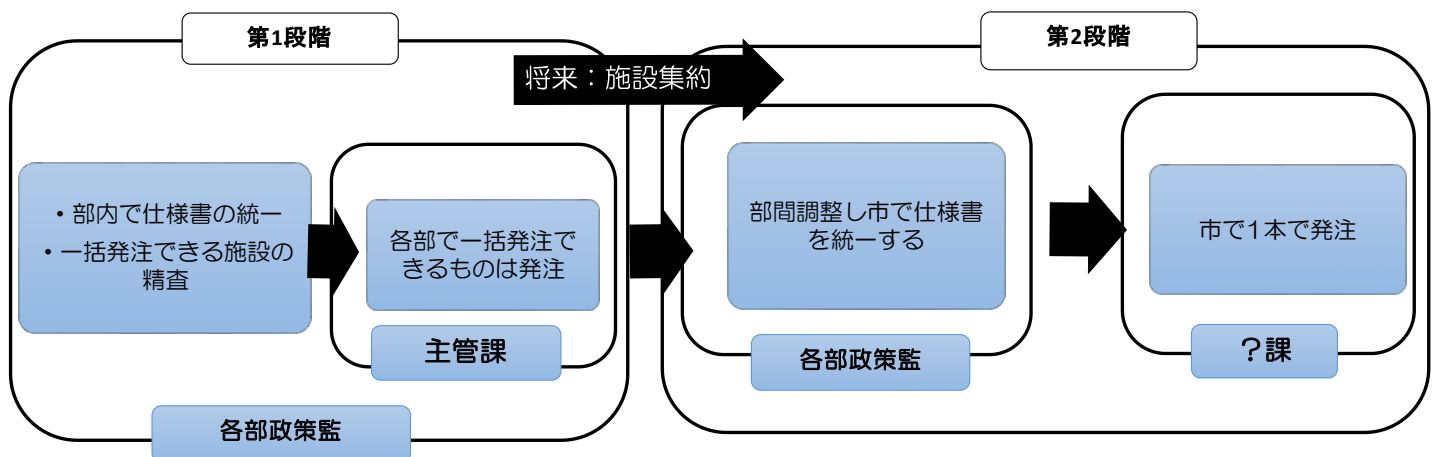
シルバー人材との時給契約
(除草)

現在、業務委託の仕様書については、あまりにもバラバラで市として1本に統一するには時間を要する。

3. 目標

将来、施設を集約し適正配置を行うために、仕様書を見直し統一する必要があります。

仕様書を統一した後に、段階的に一括委託を実施。まずは第1段階として部内で一括発注できる施設を精査し、まとめて発注。最終的に市で仕様書等を統一し、一括発注することでの経常経費削減が目標。



※ 第1段階検討で各政策監の判断で部を越えてもスケールメリットが見込める場合は第2段階から可。

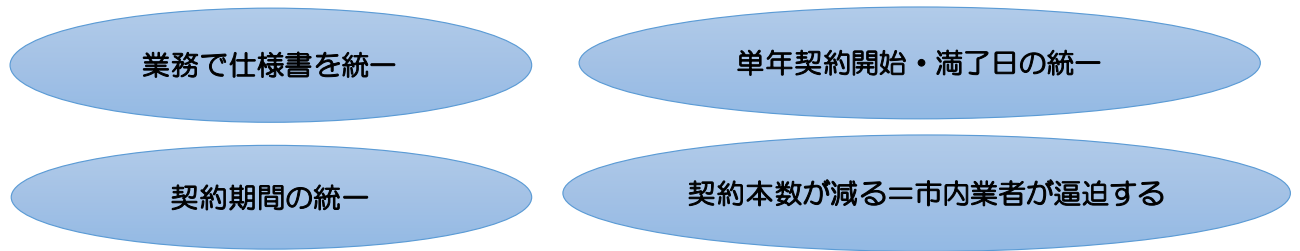
●ファーストステップ対象施設

ファーストステップ対象施設は、業務委託一括発注の見直し対象からは除く。

ただし、以下の手順を進めるものとする。



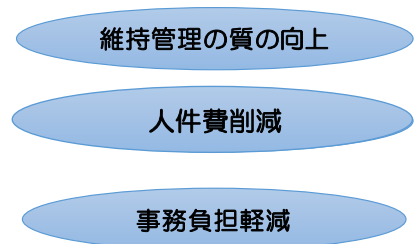
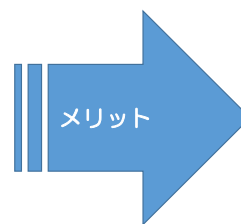
4. 一括発注にむけての課題整理



5. 先進地事例

- 兵庫県明石市

1,400件の点検・修繕業務を一括して委託



6. 今後のスケジュール

H30.7～8

- データベースの整理

業務委託一覧表の確認作業（契約期間等）・・・・・・・・・・財政課→所管課へ

アクションプラン対象施設以外の施設の追加確認・・・・・・・・・・財政課→所管課へ

長期継続契約と単年契約の定義整理・・・・・・・・・・財政課→契約監理課に確認

回答をもとに上記スケジュールの整理・・・・・・・・・・財政課

H30.8 末～9 月初旬

- 各政策監へ状況説明

H30.10

- ハコモノ部会で提案説明・・・庁内の合意形成

※ H31 年度当初予算については現行の仕様書で要求（31 年度一次分入力期限 H30.10.31 まで）

H31.4～

- 部での一括発注を目指していく